

景況実感調査(9月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 価格は横這いで荷動きも活発とは言えず、在庫も過多気味が続く。10月のメーカー価格動向に注視したい。
- ② 上期最終月となったが、冴えない状況に変化なし。需要家向けは決算月の在庫圧縮からか不急の在庫補充はせず、荷動きに影響があったと思われる。転じて、メーカーからは契約残の引き取りを強く要求され、月末近くの営業倉庫前では入庫車の渋滞が見られるほどだった。8月の鉱工業生産も1.5%のマイナスを示しており、足下の生産活動全体に弱さが見られ、中国物のホット価格下落基調も続いており、好調だった自動車生産計画も下方修正されるなど、急激な円安による輸入価格の上昇とも相まって景気も踊り場に入ったようだ。
- ③ 車が無い。単価が上がらない。店売りが低調。

中板

- ① 市況は下げ止まったが荷動きが悪い。秋需に期待していたが、9月は空振り。年内に需要が好転するのか疑問。

厚板

- ① 先月は夏休みがあり売上が減ったが、今月は鉄骨や土木が予定以上に受注があり、これからの秋需の盛り上がりにも期待する。

一般形鋼

- ① 一日当たりの売上高と収益状況は前月の8月とほぼ同じであった。9月よりの需要シーズン・イン入りの期待を裏切られたことよりも、前年同月比の数字が「やや減少」という結果にショックが大きい。ユーザーに仕事は有るので、10月は地道に前年同日で増を目指す。
- ② 8月は盆休みがあった分、売上が減ったが、9月は大型物件が動いたために鋼材の出荷量は増えている。職人不足は相変わらずだ。

II形鋼

- ① 出荷量は回復傾向にある。需給バランスを考えての行動が必要。
- ② 大きな変化がなく、まったり感が漂っている、この閉塞感が変わらない限り、この状況は続くと思われる。

異形棒鋼

- ① 9月上旬に物件の引合いが出たが競争販売のため利益無き商売であった。その後は従来通りの低調な商売で、秋需の盛り上がりのない環境が続いている。

平鋼

- ① 9月はやや雰囲気は良くなるも荷動きは横這い。建築を中心に需要は期待できるが、工期の遅れも目立ち盛り上がり感に欠ける。価格は弱基調ではあるが、相場を動かす状況ではなく、横這いで推移。

鋼管

- ① 前月比増も前年比では減で、例年の9月の勢いは見られない。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品は足下堅調に推移しているが、一部の自動車メーカーの生産調整も予定されており、先々不透明である。建設機械関連は中・小型機種を中心に比較的底堅い動きとなっている。また、一般産機、工作機械も輸出を中心に上向け傾向となっている。店売りの荷動きに大きな変化はなく、横這いで推移している。在庫状況も変化なく、適正レベルとなっている。

軽量形鋼

- ① 職人不足で現場が遅れている。

その他

<鋼材全般>

- ① 秋需の盛り上がり期待するも、残念ながら足下は盛り上がり欠ける状況。流通も下げ余地無く、現状をしっかり捉え、惑わされることなく市況を維持していきたい。

<曲げ加工>

- ① 9月に入って曲げそのものは大きな変化はないが、特注が2、3あったのでやや増加につながった。市場全体はいくらか動いているように思われるが、特殊な曲げ加工においては、まだ潤った状況ではない。例年、9月から暮れにかけていくらか忙しくなる傾向だが、安心は出来ない。

<スクラップ>

- ① 先月まで低調だったスクラップ発生は少し増えてきた。しかし、スクラップ価格の競争力を牽引する海外向けが売れないので、この状況が続けば10月に向けて、まだ価格は下がるのではないかと。
- ② 産業が空洞化している。

<金属表面処理加工>

- ① 8月は物件物の工程が遅れ次月へずれ込んだが、紐付き材料が順調に動いたこととスポットの成約が多く、扱ひ量としては前月比で10%以上の増加。同様に付加価値の高い加工も多く、売上げも大幅増。10月も引合いが活発なことから物件物、紐付きを中心に高操業で推移しそうである。